科目の特徴について

1. 学部共通基盤専門科目

多面的かつ複合的な基礎的学修を通じて、自身の学修テーマの発見と専門領域（メジャー）を選択するための科目で、「専門基盤力科目」と「プログラム複合科目」から構成されます。「専門基盤力科目」の内、科目番号が100番台は、5つの領域の専門知識の基礎を順次性・体系性をもって学び、高年次での専門科目を念頭に、各専門分野の修得に求められる基盤力の獲得を目的としています。科目番号200～240番台は、地域から世界、世界から地域、という双方向性から、多面的・学際的なアプローチに基づき、地域・国際的な問題の解決と課題の達成に向けて挑戦するための基盤力の獲得を目的としています。また、科目番号が250番以降は、「プログラム複合科目」として、5つの領域の組織構成を生かし、人文・社会科学の総合的な視点に基づき、3つの観点（地域理解・国際理解・課題発見）を横断的に網羅し、学際的・汎用的見地から学際的な基盤力の獲得とプログラム配属後の個々の課題発見を目的としています。

2. プログラム専門科目

専門基盤力科目で修得した基礎を基盤として、専門分野の体系的修得の獲得をめざすための「プログラム別の専門科目」と地域・国際的な課題や問題に挑戦すると同時に、学生自らが発見した課題やテーマを、専門性と学際性のフレームワークから紐解き、その成果を卒業研究として作成する「地域・国際実践力科目」から構成されます。「プログラム別の専門科目」には、それぞれのプログラムの基礎的な内容を中心とした「基礎科目」と発展的な内容の「応用科目」があります。「地域・国際実践力科目」には、課題やテーマを紐解くための少人数による演習教育である「地域・国際実践力演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（いわゆるゼミ）」に加え、フィールドワークやインターンシップ、PBL（プロジェクト型の学び）を基軸とするキャリア教育、実務家による寄付講義といった、実学的かつ体験型の教育も含まれ、多様性に挑戦することができる実践力の獲得をもめざしています。また、「卒業研究」（科目区分は応用科目）において、4年間の学習と研究の成果を、教員の指導のもと、個々の学生の集大成として、卒業論文等を作成します。

3. 専門教育選択科目

上記の卒業要件を超えて履修した科目、他学部・他プログラムの専門科目、指定された資格に関する科目など、学生の興味関心のもとに履修する科目です。